



## 日常生活の振り返り…その行為、人権を侵害していませんか

～ 生徒会本部役員による「人権劇」の取組みより ～

12月10日（金）、人権旬間の取組の一環として、生徒会本部役員による「人権劇」が行われました。全校生徒を対象にじめに関するアンケートを実施し、そこから見えてきた綾南中学校の人権意識の課題を3つ取り上げ、劇仕立てで全校生に問題提起を行いました。取り上げた学校生活の場面は以下の通りです。

場面① 人が好きなことや気に入っているものについて他者が揶揄する行為。また、それを本人たちのいない所で悪口や噂話として広げる行為。

場面② 相手が嫌がるような身体接触や人の持ち物等を勝手に触る行為。また、相手が嫌だと感じることを何度も繰り返す行為。そのことを見て見ぬふりをする行為。

場面③ 学校での会話やインターネット上での会話の中で、「うざい」「きもい」といった否定的な言葉や相手を傷付けるような言葉を言う行為。また、「軽い気持ちで言っただけ」「これくらいなら許されるだろう」といった自分勝手な感覚で行き過ぎた発言をする行為。



【場面① 好きなものを…】



【場面② 嫌がっているのに…】



【場面③ どうしてそんな言葉で…】

生徒会本部役員が真剣に演じ、投げかけられた課題についてフロアの子どもたち全員が真剣に自分の行為を振り返りました。以下は、人権劇を見ての子どもたちの感想の一部です。

- ◆ 私は、今まで、人権についてよく分かっておらず、人ごとのように思っていました。でも今回の人権劇やアンケート結果を見て、私たちの身近にも人権が守られていない場面はたくさんあることや、どんな言動が人権を侵害する行為にあたるのかを具体的に知ることができました。人権に対する考え方が変わるきっかけになりました。
- ◆ 人が嫌がったり傷付いたりするだろうと思うような発言を聞いたことがあると答えた人が325人もいることに驚いたし、自分も気付かないうちに、誰かを傷付けてしまっていたかもしれないと思うと怖くなりました。
- ◆ 人権劇の内容は、普段の生活においてよく目にするもので、「またか」と私自身あまり気にしなくなっていました。でも、たとえ軽い気持ちでも、いくら仲のよい相手でも、自分の「大丈夫だろう」という感覚だけで行き過ぎた行動をしないようにしたいです。

子どもたちは日常生活において、したり、されたり、見たりしている場面を改めて自分事として振り返ることができたようです。この日の休み時間、教室前の廊下を歩いていると「その言葉がだめ。朝、人権劇で見たやろ？」という子ども同士のやりとりが聞こえてきました。



子どもたち自らが発信する取組は心に響き、頭では分かっているものの行動が伴わなかったことへの反省や振り返りを促すことに繋がります。しかし、そのことを忘れて、人権意識に欠く言動を再びしてしまうという人間の弱さがあることも否定できません。

人権旬間の人権尊重の意味を見直し、自分の言動を振り返り修正することに繋げる取組です。今週末に行われる人権集会を、人権旬間の集大成として位置付けています。